

漢詩

「岳陽楼に登る」

杜甫

がくようろう のぼ
むかしき
昔聞く 洞庭の水
どうてい みず

いまのぼ
今上る 岳陽楼
がくようろう

ごそ
吳楚 東南に拆け
とうなん さ

けんこん
乾坤 日夜に浮かぶ
にちや う

しんぼう
親朋 一字無く
いちじ な

ろうびやう
老病 湖舟有り
こしゆうあ

じゆうば
戎馬 関山の北
かんざん きた

けんよ
軒に憑れば 涕泗流る
ていしなが

*唐の杜甫（七一二〜七七〇）の五言律詩。

「酒を勧む」
さけ すす
于武陵
うぶりやう

君に勧む 金屈卮
きみ すす きんくつし

満酌 辞するを須いず
まんしゃく じ もち

花発けば風雨多し
はなひら ふううおお

人生 別離足る
じんせい べつりた

*于武陵（八一〇〜？）の五言絶句。
ごごんぜっく

【参考資料】

- 『声に出してよむ漢詩の名作50』 莊魯迅／著 （平凡社）
『中國詩人選集 9 杜甫 上』 （岩波書店）
『中国名詩選 下』 松枝茂夫／編 （岩波文庫）